

令和8年度 全国学力・学習状況調査のまとめ

南アルプス市教育委員会

1 南アルプス市教育委員会の基本方針（全国学力・学習状況調査の集計結果公表について）

全国学力・学習状況調査の目的は、全国的な調査の中で全国・県の傾向を知ると共に、自校の傾向を分析し、その結果を児童生徒の学習状況の改善等に役立て教育指導の充実に生かしていくことにあります。市教育委員会としては、これまでと同様に各校が結果を真摯に分析・活用し、日々の“分かる授業”づくりに反映させることが、最も大切であると考えています。

2 学力に関する傾向と対策について 【南アルプス市全体の集計結果】

市全体の正答率は小学校の国語、中学校の国語ともに、全国・県の正答率と同程度です。小学校の算数は、全国の正答率より低く、県の正答率と同程度です。中学校の数学と英語は、全国・県の正答率より低いです。

（※同程度とは、南アルプス市の正答率が、比較対象の正答率の±5ポイント以内にある場合をいいます。）

【傾向】全国や県と比較して同程度の問題も多く見受けられますが、今後、以下の課題に対し、継続して授業改善に取り組んでいく必要があります。

<小学校の課題>

- 国語：筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること
文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
- 算数：二つの数量の関係に着目し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察すること
基準量と割合から、比較量を捉えること
図形の計量や図形の構成の仕方について考察すること

<中学校の課題>

- 国語：語句の意味を理解し、文章を読んで、文脈上の意味を捉えること
文章を読んで理解したことを基に、自分の考えを書いて表現すること
- 数学：図形における基本的な知識に関すること
筋道を立てて、証明することができること
事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- 英語：社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えること
文章を読んで、要点や概要を捉えること
書くことにおける基本的な知識や技能に関すること
事実や自分の考え、気持ちなどについて、まとまりのある文章を書くこと



【対策】

- ① 小中学校ともに、自分の考えを分かりやすく説明するなどの「知識の活用」が求められる問題に課題が見られます。知識を活用する力を高める取組として、本市の事業である「学びの質を高める授業づくり推進事業」で研究している指導方法や考え方を授業に反映したり、ICTを積極的に活用したりしながら、各校における「主体的・対話的で深い学び」に基づいた「学習者主体の授業」への授業改善を進めます。
また、一人一台コンピュータのドリルアプリを活用し、前学年でつまづいた事項についての学び直しや復習を習慣づけることで、基礎的・基本的な知識・技能の向上にも取り組みます。
- ② 国語においては、小学校で身につけた基礎的な力を、中学校で発展させながら学んでいるよい傾向が見られます。一方で、文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、文章を読み理解したことに基いて自分の考えを確かなものにするとは、小中学校ともに、苦手な傾向があります。継続した指導に今後も取り組み、引き続き自分の考えを伝える際に、考えと根拠などを整理して表現する時間を増やすなど、「読解力」「自分の考えを記述する力」を高められるよう授業改善を進めていきます。

- ③ 算数・数学においては、小中学校ともに、図形領域が苦手な傾向にあります。日常生活とのつながりを意識した授業づくりに取り組み、具体的な活用場面を通じて理解を深めていくことが必要です。国語の学習と同様に、自分の考えを図や式、文章などで書き表したり、友達や学級全体に自分の考えを説明したりする時間の充実などを通して授業改善を進めていきます。
- ④ 英語においては、小学校で慣れ親しんだ、日常的な話題について聞くことは、得意としている生徒が多い反面、文字に対して苦手意識をもっている生徒が多く、「読むこと」と「書くこと」の領域において、課題が見られます。目的意識をもって英語を使用する場面を増やしていきながら、聞いたり、読んだことをもとに話したり、書いたりするなど、4技能を統合させるような活動を通して、楽しみながら英語を使用できる授業改善を進めていきます。

3 生活状況に関する傾向と対策について

【傾向】 南アルプス市全体の数値が全国や県と比較してよい傾向にあった項目や改善に向けて努力が必要と思われる項目を抜粋したもの。

*○=よい傾向にある項目 ▽=改善が必要な項目

	小学校	中学校
自己について	○自分には、よいところがあると思う。 ○人が困っているときは、進んで助けようと思う。 ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 ○人の役に立つ人間になりたいと思う。 ○友達関係に満足している。 ○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	○自分には、よいところがあると思う。 ○将来の夢や希望を持っている。 ○人が困っているときは、進んで助けようと思う。 ○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。 ○人の役に立つ人間になりたいと思う。 ○友達関係に満足している。
学習活動	○学級で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。 ○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。 ○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題解決に取り組んでいる。 ○学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	○学級で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。 ○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。 ○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。 ○授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる。 ▽授業で、PC・タブレットなどのICT機器をよく利用している。
生活習慣	○朝食を毎日食べている。 ○毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりしている。 ▽家庭でのSNSや動画視聴などの時間が多い。 ▽家庭での学習や読書時間が少ない。	○朝食を毎日食べている。 ○毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりしている。 ▽家庭でのSNSや動画視聴などの時間が多い。 ▽家庭での学習や読書時間が少ない。

【対策】

- ① 小中学校とも、「家庭学習の時間が少ない」傾向が続いています。各校においては、児童生徒の実態に応じて保護者の理解・協力を得ながら、家庭学習の充実に向けて、ルールづくりなど、取組の改善を図っていきます。家庭学習の時間を確保するためにも、テレビや動画視聴、ゲーム、SNSなどのメディアに費やされている時間が適正かどうか、児童生徒に考えさせる機会をつくっていきます。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」を実現した授業づくりが各校において積極的に取り組まれている中で、課題の解決に向けて、自分で考えたり、取り組んだりできるようになってきています。一方で、自分の考えを伝えるときに、より分かりやすく工夫する意識をもつことが、小中学校ともに必要となります。市内全小中学校で小中一貫の取組がスタートしています。授業でも、小中9年間を見据えた授業改善を意識して取り組んでいきます。
- ③ 一人一台コンピュータを活用した授業が展開され、学習での使い方に慣れてきています。家庭においてもコンピュータが学習に有効に活用できるよう取組を進めていきます。

※市全体のまとめを【傾向】として公表していますが、各学校の実態・実情もそれぞれのため、学校間格差があり、必ずしも市の全体集計結果と各校の傾向が合致しない部分があることは否めません。全国・県・市の全体傾向や対策を参酌し、各校が主体的に分析を行い「授業改善・生活改善」を進めることを、市教育委員会として継続して支援していきます。